お知らせ

◆周作クラブ・文学セミナー2020

※「遠藤文学原点の旅」のための勉強会です。旅に参加なさらない方も、もちろん歓迎します。

※日時変更になりましたのでご注意ください。

日　時　4月4日（土）15時半～17時

テーマ　「ユリアとよぶ女」と駿府・網代／「怪奇小説集」と熱海

講　師　高橋千劔破／今井真理

会　場　慶應義塾大学三田校舎内「萬来舎」（南校舎3階）

JR・地下鉄「田町」下車

会　費　1，500円（飲み物代とも）

※事前申込不要。直接おいでください。終了後、懇親会があります。

◆第21回　遠藤文学原点の旅「ユリアとよぶ女」「怪奇小説集」の舞台―駿府・網代・熱海をバスで巡る

日　時　5月17日（日）～18日（月）

※今年の「遠藤文学原点の旅」は、1泊2日の小旅行です。静岡や熱海近辺の方はぜひご参加ください。本報3ページに詳細を掲載。

◆遠藤周作関連エッセイ
遠藤周作さんのこと　松井千恵

三田評論　2020年1月号

定価　410円＋税

※著者は慶應義塾大学文学部の第1回女子学生で、遠藤氏の同級生。元白百合女子大学教授でシスター。遠藤氏の『聖書の中の女性たち』には、「ひよこ」のあだ名で紹介される。

問合せ先　「三田評論」編集部

TEL 03-3451-3584

※本誌は年間購読が原則ですが、一部売りは、慶應義塾三田インフォメーションプラザ、慶應義塾生協書籍部、新宿の紀伊國屋書店本店でも取り扱っています。

◆加賀乙彦会長の新著
わたしの芭蕉

講談社　2020年1月28日刊

定価　1600円＋税

※美しい言葉の世界に遊ぶ小説家が、芭蕉の句を読み解きながら日本語の豊かさ、人の生き方、老いと死の迎え方を伝える味わい深いエッセイ。

◆町田市民文学館ことばらんど
「三島由紀夫展――〈肉体〉という second language」　※観覧無料

日　時　3月22日（日）まで【1月18日より開催】10時～17時

休館日　毎週月曜日と2月13日（木）、3月12日（木）。

◇町田市民文学館ことばらんど

東京都町田市原町田4の16の17

TEL 042-739-3420

JR横浜線「町田駅」から徒歩8分

小田急線「町田駅」東口から徒歩12分

◇　◇　◇

✤「周作クラブ」会員募集

「周作クラブ」では会員を募集しています。遠藤文学ファンはもちろん、これから読んでみようという方々も大歓迎です。

年会費は3，000円。入会金はありません。年4回発行の「会報」が送られるほか、会が主催する「文学セミナー」や遠藤作品の足跡を訪ねる「遠藤文学・原点の旅」へ参加できます。新年会、各種懇親会へのご案内もお送りします。下記「周作クラブ」まで、ハガキかEメールでお申込みください。折り返しご案内の資料と会費の振込用紙をお送りします。

前号でお知らせしましたように「協力金」の項目を加えた振替用紙を作りましたので、ご意思のある方は一口1，000円、何口でもお振込みをお願いします。

遠藤ボランティアグループからのご報告とご案内

遠藤周作氏生前の「心あたたかな病院運動」（1982～）に始まった遠藤ボランティアグループ（以下、遠藤VG）は、グループでの講座を通して学んだことを活かしつつ、病院・施設におけるボランティア活動を続けてきました。目に見えない〈人のこころ〉に触れる集まりだからこそ、自己研鑽を大切にしていきたいと思っています。

今年1月には、元NHKアナウンサーの内多（うちだ）勝康氏（医療型短期入所施設「もみじの家」ハウスマネージャー）を講師に迎えて、「医療的ケア児とその家族が直面している現状と問題」を東京・北沢タウンホールで行ないました。手厚い医療処置が必要なまま自宅に戻らざるを得ない〈医療的ケア児〉と、重い負担を強いられている〈家族〉のための宿泊・医療施設――という新しい支援の仕組みが、画像をまじえて1時間ほど、内多講師によって詳しく紹介されました。

さらに後半では、遠藤周作氏が「医療的ケア児とその家族の状況を知ったら何を思うか」を前提に、遠藤VG代表・原山建郎の司会で、内多氏に加えて、加藤宗哉氏（作家）、村松静子氏（在宅看護研究センターLLP代表）によるパネルディスカッションが行われました。重い病気を持つ子供と家族が「その人らしく」生きる社会をどうしたら創ることができるかは、また私たちのグループのテーマでもあります。

遠藤VGでは創設以来、傾聴、外来案内、図書ボランティアなどの活動を続けてきました。「心あたたかな医療」実現のために参加してくださる方々からのご連絡を、私たちはお待ちしています。

◇連絡先　件名を「参加希望」とし、以下へお問い合わせください。　Eメール info@endo-vg.net

（山崎洋子）

✻編集後記✻

▼お正月以来、おだやかな日が続いております。暖冬の影響で雪も降らず、霜も立たず我が庭には、ノースポールや三色すみれ、名残りのサルビアなどが咲き続け、真冬の庭とは思えません。もっとも、北陸や東北・北海道では、まだ厳しい冬が続いていると思います。

▼2月1日には、長崎市外海の遠藤周作文学館で、「遠藤周作を偲ぶ一日」の集いがあり、久しぶりに遠藤周作先生の担当編集者たちと、思い出を語り合いました。それぞれ、先生の思い出は鮮やかで、没後23年も経ってしまったとは思えません。その晩は長崎の夜を、周作クラブ長崎の皆さんと楽しみ、美味に舌つづみを打ちました。

▼立春、暦の上では春を迎えましたが、親しい友人が亡くなりました。小生の少年時代からの大親友（故人）の奥さんです。毎年、一人、二人と親しい人たちが欠けていく年令となりました…。

▼さて、この会報が届くころには、ウグイスの初音が聞かれるでしょうか。　（劔）

「周作クラブ」第78号
2020年2月発行

■発行人　加賀　乙彦
■編集人　高橋千劔破
■副編集人　亀岡　園子
■編集部　一田佳希、大原雄、近藤恭弘、高木香織、南紀洋子、清水優子
■発行所　東京都世田谷区上馬4－29－17
加藤宗哉事務所内「周作クラブ」
Eメール　Shusaku_club@yahoo.co.jp
FAX　03－3421－1521
●次回の会報発行は6月の予定です。